

関西半導体人材育成等連絡協議会 第2回全体会合 議事要旨

1. 日時

令和8年2月10日(火) 15:00~17:00

2. 開催場所

グランフロント大阪&オンライン (Microsoft Teams)

3. 参加企業・団体

【産業界】(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ、住友精密工業(株)、東芝デバイス&ストレージ(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、ヌヴォンテクノロジージャパン(株)、三菱電機(株)、ローム(株)

【教育機関】京都大学、京都工芸繊維大学、立命館大学、大阪大学、大阪公立大学、関西大学、神戸大学、兵庫県立大学、奈良先端科学技術大学院大学、舞鶴工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校、(独法) 国立高等専門学校機構

【団体・支援機関】(公社) 関西経済連合会、技術研究組合最先端半導体技術センター (LSTC)、(国研) 産業技術総合研究所 (AIST)、SEMI ジャパン、(一社) 電子情報技術産業協会 (JEITA)

【行政機関・自治体】福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、文部科学省、経済産業省、近畿経済産業局

4. 議事要旨

資料1「経済産業省における半導体政策の動向」について、経済産業省より説明

資料2_1「関西半導体人材育成等連絡協議会 第2回全体会合 事務局資料」について、近畿経済産業局より説明

資料2_2「関西半導体産業の実際調査」について、事務局より説明

5. 意見交換における参加者からの発言要旨は以下のとおり。

- 関西は大学毎に特色があり、企業の裾野も広いことから、協議会を通じて互いの研究や活動を紹介し合い、顔の見える関係や人的ネットワークを広げていくことに価値があるとの意見があった。
- 人材育成については、数の拡大だけでなく、関西がどのような分野に強みを持つのかを踏まえて、育成する人材の方向性を示していくことが重要との意見があった。半導体は領域が広いので、こうした特色を明確にすることで、その分野に関心を持つ人材の関心を高められるのではないかと指摘があった。
- 関西にはサプライチェーン上の重要な企業が多く、産業全体のつながりや役割を分かりやすく示すことで、学生が幅広い進路や関わり方を理解しやすくなるとの意見があった。
- 大学・高専・企業の相互訪問や、教員や企業担当者が参加する見学会は教育的な観点から有効との意見があり、こうした交流を通じて新たな連携やアイデアが生まれることへの期待が示された。
- 学生は研究や授業との両立が求められるため、新しい取り組みを進める際には負担に配慮しつつ、実施内容を見極めながら、参加しやすい形で進めていくことが必要との指摘があった。また、学校・企業双方のリソースを踏まえ、取り組みを適切に選択しながら進めることが望ましいとの意見もあった。
- 多様な学生が参加しやすい環境づくりが必要との意見があり、女子学生や留学生への配慮に加え、若年層への関心喚起についても、他地域の取り組みを参考にしながら関西でも長期的に検討していく必要があるとの指摘があった。

以上